

里親学生支援室だより NO. 32

発行日: 2026/10/6 発行元: 里親学生支援室



2026/9/1 (火)・2 (水)

長浜市・湖北地域方面での宿泊研修を実施しました！

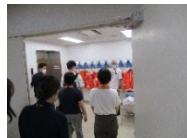
「長浜市・湖北地域方面の医療と歴史・文化を学ぶ」と題し、9月1日(火)～2日(水)に夏期休暇期間を利用して、NPO法人滋賀医療人育成協力機構及び滋賀県医師キャリアサポートセンターと協同で宿泊研修を実施しました。今回は、本学学生14名(医学生11名、看護学生3名)と滋賀県立大学から6名の参加もあり総勢20名での研修となりました。

1日目

長浜赤十字病院

楠井病院長から病院の概要や地域の特性についてお話いただいた後、病院見学を行っていただきました。最後に医学科・看護学科に分かれて、医学科では、初期研修医のプログラムの内容について、説明いただきました。

各病院が連携を取り合い、役割分担することで地域を支えていることが分かりました。医学科 第1学年



医療機関や行政、それぞれの立場から長浜の医療を見つめることで、同じ地域についても見えている景色が違うことを実感しました。医学科 第4学年



交流会〔グランパレー京岩〕

〔第1部〕講演会・意見交換会等
「長浜市の地域医療を考える」
～国民健康保険診療施設等に関する今後の方向性を中心に～

長浜市副市長 萩田 洋介 氏



第1部では、萩田副市長から長浜市のへき地医療の確保、持続可能な医療体制の構築、地域包括ケアシステムの推進などについて、それぞれの地域にあった機能の必要性や、限られた医療資源の組み合わせの必要性についてお話いただきました。第2部では、研修先でお世話になった方々や里親、室員の先生方と情報交換を行いました。第3部では、ホテルに戻り、参加学生同士で交流を行いました。

2日目

長浜市立湖北病院

納谷病院長に冒頭のご挨拶を頂戴し、早速、透析センターと救急の現場を見学しました。透析センターでは、臨床工学技士の方から透析装置の仕組みや運用方法についての説明を受け、救急の現場では、納谷病院長が実際に患者さんと対応する姿を見学し、湖北地域の救急の現状について学ぶことができました。

交流会を通して、将来、湖北で働くということが、私自身の進路の1つとして具体的に思い描けるようになりました。医学科 第2学年



医療機関が少ない地域だからこそ、そこに住む患者さんを第一に考え、地域に必要な医療を届けようとする医療従事者の思いを知ることができ、とても心を動かされました。人間看護学部 第1学年

2班に分かれて研修

浅井東診療所

浅井東診療所では、学生たちは、事前に松井所長から提案された「診療見学実習コース」と「地域交流対談コース」のそれぞれのプランの中から選択し、研修を行っていただきました。

看護師が気づいた小さな変化も、診断や治療につながる重要な情報になるのだと考えるようになり、今後は、ただ患者さんの様子を見るのではなく、「この変化にはどのような意味があるのか」を考えながら観察し、必要な情報を他職種に伝えられる看護師になりたいです。人間看護学部 第1学年



地域医療においても、住民同士の支え合いが行っているような地域づくりをしていくことがこれから大切になってくるのだと感じました。医学科 第2学年



地域医療について考える際に、「地域医療とは何か」という答えを探すだけでなく、自分自身が何に関心を持ち、何を大切にしたいのかを考えることが重要なのだと感じました。看護学部 第1学年



長浜城散策



市立長浜病院

高折院長からご挨拶があり、市立長浜病院の歴史や、病院の特徴でもある地域がん診療連携拠点病院の役割についてお話いただきました。続いて、医学生と看護学生に分かれ、医学生については研修医室、スタッフステーション、人工透析センター、オペ室など様々な施設を見学させていただきました。



医師としてのキャリアをより具体的にイメージでき、自分の将来像を考える上で大変有意義な時間となりました。医学科 第1学年



長浜市の医療体制がどのようなになっているのか、そこで働く医療従事者の方々がどのような思いを持ち患者さんと接しているのか、そして、高齢化が進む地域を今後どのように支えていくのかについて、実際に現場を見たり、話を聞いたりしながら学びました。看護学部 第1学年

木之本地蔵院周辺散策

木之本町にある木之本地蔵院を参拝しました。古くから眼の仏として信仰を集められたお寺で、境内のいたるところに「身代わり蛙」というカエルのお守りが奉納されていました。



長浜市立湖北病院

滋賀県で一番北に位置する湖北病院を訪問しました。東野副院長から病院の概要についてお話いただいた後、3グループに分かれて外来や病棟見学などを行っていただきました。



『一つ一つのケアを「ただの作業」にするのではなく、必ず意味を持たせること』と看護婦の方が仰っていた言葉が印象的でした。医学科 第1学年

「最後の砦」としての役割を果たすために、患者さんの動線を工夫したり、医療職の方が情熱を持ってチームワークを発揮しながら診療にあたられている姿を実際に見ることができ、大変感銘を受けました。医学科 第2学年

地域包括支援センター、老健、訪問看護が同じ組織・建物内にあります。入院→ケアプラン作成→介護→在宅という地域包括ケアのサイクルが1か所へ回っていることに大変驚き、理想的な地域包括ケアのモデルだと感じました。医学科 第3学年

里親学生支援のホームページ

(<https://www.shiga-med.ac.jp/~satooya/>)をご覧ください！★研修の様子は里親HPにも詳しく掲載しています！！